

日本分析化学会第 71 年会 産官学交流カフェ参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 山口信雄

1. はじめに（目的等）

日本分析化学会第 71 年会が岡山大学で行われ、その中で産業界の研究者・技術者と交流を進めるきっかけとなる産官学交流カフェが開催された。今回は内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業や文科省コアファシリティ事業などにも着目し、大型の分析機器を大学間や地域で共有する様々な可能性を探っていきたいという趣旨の元、早川技術センター長からの依頼で受託分析サービスの開発と受託分析をうまく活用するコツについて発表を行った。

2. 期間・場所

期間：令和 4 年 9 月 14 日

場所：岡山大学大津島キャンパス

3. 参加者等

産官学交流カフェは 50 名程度。

4. 研修内容

産官学で行われている連携の取り組みや、技術開発、機器の共用化、コアファシリティのための体制構築などについて 6 題の発表が行われ、うち 1 題を担当した。

5. まとめと感想

産業界における規制物質検査手法の国際標準化の取り組みや、官の技術や設備を活用できる仕組みの構築、それに伴う苦労などがわかりやすく提示され、非常に興味深い内容であった。学の方からはコアファシリティを中心とした機器共用の取り組み、受託解析の充実、体制の構築について講演があり、文科省からガイドラインの説明も行われた。特に金沢大学は技術職員のキャリア形成において級別を整備し、さらに特別なマイスター、エヴァンジェリストという類型を定め、単年度手当の形で給与増を行っており、先進的な技術職員の待遇改善が行われていた。広島大学でも技術職員の待遇を改善するにあたり、大変現実的なやり方であると感じた。一方で技術職員と事務職員間の待遇における認識の違いなど、気を付けなければならない状況なども垣間見え、決して簡単なものではないとも感じた。さらに講演者と主催者での昼食会、懇親会の機会を設けて頂いたことで、フランクにお互いの状況などについて意見交換が行われ、講演内容の裏側を含め大変参考になる話を聞くことができた。

学会自体は対面式で行われたが、口頭発表では YOU TUBE で質疑応答が公開されており、迂闊に質問しにくいと感じた。ポスター会場はかなりの密が生じており、些か困惑したが、発表内容には生物系も多少あり、面白いディスカッションや新たな技術の情報収集もできた。